

人形劇脚本

妹背山動物園 on a table

登場人形

ライオン エミオン
イルオン
ヒメオン

ペンギン ペンタン
ペンネム

カメ カメッシュ

ウサギ ラビサダ
ラビーナ

フラミンゴ こぎく
ききょう

キリン ジラーヌ
ジラメド

プレーリードッグ プレリー

シマウマ シマロク
マツ

ポニー ポニジョ
サク

カバ カバシチ

野良猫 ミー

「プロローグ」

ナレーション その動物園には一本の小さな川が流れていた。そしてその川を挟むように二つの小さな丘があった。一方の丘を妹山、もう一方を背山と言う。動物園はその丘にちなんで、妹背山動物園と呼ばれていた。

タイトル投影 「妹背山動物園 on a table 」

飼育員 皆さん、ようこそ妹背山動物園へ。
最初に私から皆さんに、この動物園の動物たちの簡単な紹介をさせていただきます。
(以下、5つのエリアに順にスポット)
まずこちらが「サファリーエリア」。ここにはいるのは、まず百獣の王ライオンの親子、お父さんライオンのエミオン、息子のイルオン、娘のヒメオン。
それからキリンの親子、ジラーヌとジラメド。
そして、プレーリードッグのプレーリーなど、サバンナに生息するたくさんの動物が暮らしています。
そして次はこちら、「ウォーターエリア」。ここにいるのは、お散歩姿が人気のペンギンのペンタン、ペンネム兄弟。それからカメのカメッシュ、そしてきれいなピンク色をしたフラミンゴたちもいます。(フラミンゴが飛び立ち、次のプチエリアへ)
次はこちらの「プチエリア」。可愛いうさぎのラビサダ、ラビーナ親子をはじめ小さな動物たちがいます。
少し離れたこちらは「マキバエリア」。ここではポニーや、シマウマたちが元気に走り回っています。
そして皆さんにひとつお詫びしなければなりません。動物園一の人気者、ゾウの Mr. テンファントは、ここ最近体調を崩して、「ゾウエリア」はしばらくお休みしています。楽しみにしていた方、ごめんなさい。また、みんなの前に元気な姿で出てくるのを待っててください。

飼育員退場。

「1 場」

ウォーターエリアから、誰もいないゾウエリアを静かに見つめるペンネム。

ペンネム ああ、テンファントさま……。元気なお姿がなつかしい……。
 （しばし思い出にひたる。思い出の中でテンファントから水をかけられ）
 ああ、おやめになって、あはは、うふふ、

ペントンが登場し、妄想にひたるペンネムの姿を見つめる

ペンネム ああ、もう、テンファントさま、きゃ、だめ、
 （ペントンに気が付き）わ、ちょ、お兄ちゃん、いつからいたの！？
ペントン 今散歩から帰ってきた。
ペンネム 妹の部屋を勝手にのぞくなんて最低！
ペントン 部屋って、そんなもの決まってるだろ！
ペンネム 昨日いったでしょ、ここから、こっちは私の部屋だって。覗くの禁止。
ペントン また勝手な。だいたい仕切りも何もないのに、覗くなって無理だろ。
ペンネム だいたいお兄ちゃんはさあ……

ペントン、ペンネムの言葉を無視して、前を横切る

ペンネム ん、お兄ちゃん、どこ行くの？
ペントン またエミオンのやつに呼ばれてな。
ペンネム え……

ペントンの向かう先、サファリエリアにスポット

エミオン ジラーヌ！息子のイルオンは、まだ姿を見せぬか！？
ジラーヌ それが、イルオン君は、今日もお部屋にこもって外には出てたくないと。
エミオン またか！あの引きこもりが。我が息子ながら情けない。
 ジラーヌ、お前の娘も一緒にいるのであろう。娘に言って外へ連れ出せんのか！
ジラーヌ はあ、イルオン君の頑固さにはわが娘も手を焼いているようで。
ヒメオン お父さんが兄さんを甘やかすからでしょ。
プレリー けけけ、エミオン様、ペントンが。
エミオン おお、ペントリン。わざわざすまん。では始めよう。カメッシュも来ているな。
カメッシュ （ウォーターゾーンの端にじっとしている）はい。
エミオン ペントン、今日よんだのは他でもない。近頃ちょっと妙な噂を耳にしたものでな。
ペントン うわさ？

エミオン 知っての通り、この動物園で一番の人気者、**Mr** テンファントが原因不明の体調不良になってから久しい。動物園にとっては大きな痛手だ。テンファントがいない間は残された我々で協力して動物園をなんとか盛り立てていかねばならん。そうだろう？

ペンタン ……で、何が言いたい？

エミオン 実はな、テンファント不在のこの機に乗じて、お前が動物園の人気を独り占めしようとしていると、そういう噂を聞いたのだ。

ペンタン 私が？馬鹿な

エミオン ワシもそう思ったんだがな……プレリー

プレリー けけけ、こちらですな（チラシを一枚もってくる）

エミオン これは最近配られたお前たちの新しい散歩イベントのチラシだ。
ここに何と書いてある？

「皇帝ペンギンのお散歩タイム」……皇帝ペンギン！ これはどういうことだ？

ペンタン 何が？皇帝ペンギンは私たちの正式な名前だ。

エミオン そんなことはわかっている。だが何故このタイミングでことさら「皇帝」を強調する？皇帝という言葉を持ち出すことで、百獣の王であるわしらライオンよりも自分の方が偉いと皆に知らしめる。そんな野心があるのではないか？

ペンタン まさか、そんな

エミオン ジラーヌ、どう思う？

ジラーヌ たしかに、古来中国では、「王」の上に立つ者として「皇帝」の称号をもちいたとかきー、なんとまあ、こりゃあ

プレリー

カメッシュ

エミオン まった、そのチラシはペンタンが作ったわけじゃない。疑いをかけるのはあまりにも
そうか？最近のお前たちの振る舞いをみていると、単なる杞憂ではない気もするが。お前の妹はテンファントに随分気に入られていたみたいだな。妹まで使って、我らを出し抜こうとしたか？

ペンタン 言いがかりだ

エミオン 言いがかり？まあよい、わしは声が大きいのでな。今わしが語ったことは園内の動物達の耳に入っている。言いがかりかどうか世間が決めてくれるはずだ。がおー——！！

ヒメオン もう、お父さん、うるさい。

エミオン 以上だ。何か言いたいことはあるか？

ペンタン ……いや

ペンタン、何か言いたそうにするが、そのまま黙り、ウォーターエリアへ戻る。

エミオン いい気味だ。やつらはちょっと外を歩くだけできやあきやあ言われ、調子にのってるんだ。力ではライオンにかなうものはいないというのに。なあ。

プレリー けけけ、そりゃ、もう、まったく、エミオン様のおっしゃるとおり。
（退場間際ウサギエリアに）けけけ、これはラビサダさん。元気にやっとなるかい？

ラビサダ あ、どうも……

プレリー ところで娘のラビーナはどうしてる？ひさしぶりに顔がみたいなあ。
ラビサダ あの子は今遊びに出かけてますよ。
プレリー キー、そりゃ、残念だ。私が会いたがっていたと伝えといてくれるかい。
ラビサダ （ちょっと面倒そうに）あ、はい。

ラビサダ、カメッシュと目が合う。お互いに目をそらし引っ込む。

ペンネム お兄ちゃん！どうして何も言い返さないの・・・あんな一方的な言いがかり・・・
ペント ・・・・・・・・
ペンネム ・・・まさか、これ以上私に攻撃が向かないように・・・じゃあ、私のために我慢して！？
ペント 大丈夫、お前は心配するな。私が何とかする。

ペント退場

カメッシュ （ペンネムに近付き）大丈夫ですか？
ペンネム ああ、カメッシュ。どうしよう。
 テンファント様とも会えないし、その上お兄ちゃんまで傷つけられて、もう私・・・
カメッシュ ・・・少し、気分転換に、お出かけしますか。お供しますよ。
ペンネム ・・・うん、じゃあ今日は、ちょっと遠くまで行きたい。いいかな？
カメッシュ はい、では、いつものように背中にのってください。

ペンネム、カメッシュの背中に乗る。カメッシュ手足を引っ込め回転し宙に浮く。そのまま飛び立つ。

「2場」

園内を流れる川のほとり。ウサギのラビーナと、フラミンゴのこぎく、ききょうが追いかけてあっている。

こぎく ラビーナ、ちょっと、待ってくださいよ

ラビーナ あはは、こっちこっち。

ききょう もうそろそろ帰る時間ですよ。

ラビーナ ええ、もう少しだけ。そうだ、ちょっと、あっちのメガネザルをからかいに行こう

ラビーナ達、去る。カメッシュの背に乗って、ペンネム登場。

ペンネム ここでいいわ。ありがとう。

ペンネム、カメッシュから降り、河原をあるく。

ペンネム わたし・・・これからどうしたらいいの・・・

エミオンは娘のヒメオンをテンファント様に近づけたいの。だから私のことが邪魔。

お兄ちゃんに言いがかりをつけたのも、きっと私のせいよ。

・・・決めた！カメッシュ、私、しばらくエミオン達の前から姿を消す。

それがいいと思うの。周りには散歩中に行方不明になったって言って。

あ、お兄ちゃんだけには本当のことを伝えて。戻ってくるから、心配しないでって。

カメッシュ ・・・わかりました。

ペンネム お願いね。

そう言って川に飛び込み川下へ向かうペンネム。その姿を見送るカメッシュ。再びラビーナ達が登場。

こぎく ラビーナ、そろそろ。

ラビーナ わかったわよ。えい！

ラビーナ、川の飛び石にジャンプして、川を渡っていく。最後にカメッシュの甲羅に気付かず飛び乗る。

カメッシュ うお！

ラビーナ （声におどろきバランスを崩しながら）え、何？（あたりを見回し）今の声

カメッシュ 大丈夫か？川へ落ちなくてよかった。

ラビーナ え・・・ええ（声の主に気が付かず、耳をそばだてる）素敵な殿方の声。

声はするのに姿は見えない。

カメッシュ 僕もだ。ここからじゃ、その可愛い声は聞こえても、姿を見ることはできない。

ラビーナ まあ、そんな、いったいどこにいらっしゃるの？

カメッシュ 君の足元だよ。
ラビーナ え？

その瞬間、運命の恋がはじまる BGM

ラビーナ あら、やだ、私ったら、ごめんなさい、重たいでしょ。
カメッシュ 何の、君の小さな体ひとつ、全然重たくない。さあ、安心して、向こう岸へ
 ジャンプするんだ。
ラビーナ あ、そうね、えい！

ラビーナ、向こう岸へジャンプし、振り返ってお互いの姿を確認。BGM 止まる。

カメッシュ ・・・・うさぎ
ラビーナ ・・・・カメ
カメッシュ ああ、まさか君がうさぎだとは。うさぎとカメとは、先祖の代から因縁の仲。
 僕としたことが。さっきのかわいって言葉は撤回だ！
ラビーナ 私の方こそ。何の因果でカメのことを素敵だなんて思ったのかしら。
 お母様にしたら大変よ。先ほどの言葉は聞かなかったことにしてちょうだい。
カメッシュ うさぎから、素敵だって言われてもな。こっちから願い下げだ！
ラビーナ ええ、じゃあ、失礼するわ。今日のことは決して他言なきよう。
カメッシュ ふん、お互いにね。

お互い顔を背け逆方向に退場。こぎくとききょう、顔を見合わせ笑いをこらえラビーナのあとを追う。

「3場」

エミオン、ジラメドをよびつけ

エミオン ジラメドよ、うちの息子は今日もまた引きこもっているのか？
いい加減、お前から外に出るよう言ってやってくれんか？
ジラメド イルオンは・・・私が何を言ってもダメです。部屋にこもってゲームや ZooTube をしているほうが楽しいと。
エミオン 情けない。どうしてこんな風になってしまったか。ジラメド、よもやお前が息子に変なことを吹き込んだのではないだろうな？
ジラメド 私が？まさか、そんな

カメッシュ登場

カメッシュ エミオン、およびですか？
エミオン おお、カメッシュ。聞きたいことがある。近頃、ペンギンの兄弟の姿が見えないが？お前はあのペンネムという女の付き人をしてただろ？ しらぬか？
カメッシュ それが・・・ペンネムの行方は私も・・・散歩中に行方不明になったとかで・・・噂ではテンファントの病に心を痛め、身を投げたとも・・・ああ。
エミオン ふん、このまま一生テンファントの前に姿を見せないでいてくれれば好都合なんだが。ペンタンのほうは？罪の意識から人前に姿を見せられなくなったか？
カメッシュ さあ・・・わたしには何とも
エミオン ああもう、わかった、さがってよい

カメッシュ退場

ジラメド では、私もこれで
エミオン 待て、話はまだ途中だったろ
ジラメド え
エミオン お前が、息子に、おかしなことを吹き込んでいるのではないのか？
ジラメド 決してそんなことは
エミオン では、息子から何か聞いていないか？なぜ、ずっと私の前に姿をみせないのか。
ジラメド はい・・・あの・・・彼は・・・お父様がこわいと・・・
エミオン こわい？
ジラメド テンファント様がいないこの時を利用して、トップに立とうとしているのではないか。そのために邪魔なペンギン達に因縁をつけ、排除しようとしたのではないか。そして・・・テンファント様の不調も、もしかしたらお父様が手を下したのではないか、と。

エミオン ・・・ふっはっはっはっは！
わしが？テンファントを？ふはははは。面白い、息子がそんなことを？
よし、お前にだけ真実をおしえてやる。近くへ来い。
（こっそりと）息子の予想通りだ。わしがやった。プレリーに命じて、テンファントが
寝ている間にやつの二本の牙を、パキッとな。
ジラメド そんな・・・ひどい・・・
エミオン さすがに自慢の牙が二つとも折られては、人前に姿を見せるのは恥ずかしいらしい。
ジラメド それで、その牙は？
エミオン ふふふ、誰にも見つからんようにな、一本は土の中、もう一本は水の中に隠した。
牙がない間はテンファントはずっとあのままだ。
ジラメド ・・・そんなことをして、許されると思っているの？
エミオン 何？
誰が、わしを、裁くというのだ？
テンファントがいない今、わしに逆らえるものはいない。ちがうか？
ジラメド でも・・・
エミオン それとも、お前がわしを訴えるか？（ジラメドにせまる）
ジラメド （エミオンを睨み返し）もし、そうしたら・・・？
エミオン くくく、ははははは。ただのおとなしい女だと思っていたが、何が何が。
その時は、力づくで阻止するまでだ。このようにな

ジラメドを思い切り突き飛ばすエミオン。

ジラメド きゃああああああああ

突然イルオンが飛び出し、エミオンに首元に噛みつく。

エミオン ぐわああ（イルオンの顔を見て）な・・・どうして・・・おまえ・・・（息絶える）
イルオン （動かないエミオンを見つめ）おやじのやり方は古すぎる。
今の時代、力だけでは誰もついてこない。
動物園人気 No1 のテンファントを襲い、ライバルのペンギンを嘘のうわさで失脚させ、
無理やりトップの座を奪おうとした悪党ライオン。
そして今度はその秘密を知った息子の彼女もその手につけようとしたところを、
息子が間一髪助けに入り父親を倒して彼女を守る。新たなヒーローの誕生。
・・・完璧なシナリオだ。（ジラメドに）でかしたぞ。
くっくっく・・・ずっとこの時を待っていた。じっと引きこもっていた甲斐があった。

プレリー、ジラーヌが駆け込んてくる

ジラーヌ 何の騒ぎです？ あ・・・！
プレリー ひiiiiiiii！エミオン様は？？
イルオン 俺の手で殺した。
・・・・作戦通りだ。
プレリー え？
イルオン ジラーヌ、親父と同じように、今後は俺に従ってくれるな？
ジラーヌ ・・・・もちろん、最初からそのつもりです。
イルオン プレリーも。
プレリー え？あ、いやー、その
イルオン お前がテンファントに手を下したのをバラしてもいいのか？
プレリー え？あ、そりゃ、もちろんイルオン様についていきますとも。へへへへ。
イルオン よし、テンファントにはこのままもう少ししばらく引っ込んでおいてもらう。
牙の隠し場所を絶対にもらすなよ。
その間に、あのペンギン兄弟を探し出すんだ。そうだ、今回の件は、親父とペンギン
たちの共犯ということにしてしまおう。いいな、みつけ次第処分しろ。

ヒメオンが入ってくる。

ヒメオン きゃああああ、何？お父様？？兄さん？？
イルオン ・・・・仕方なかったんだ。もう親父の時代は終わった。これからは俺が親父のあとを
継いでここを治めていく。お前は何も心配しなくていい。わかってくれ。
(周りに) さ、行くぞ。

イルオンに続き、ジラメド、ジラーヌ、プレリー退場。
その様子を隣のエリアからこっそり見ていたペンタン、そっと退場しようとする。

ヒメオン (ペンタンに気づき) あ！

ペンタン、その声に振り向きヒメオンを見る。軽く片手をあげ、そのまま檻を抜け、退場。

ヒメオン え・・・

ヒメオン、その様子をじっと見つめている。

「4 場」

動物園の片隅の道端で昼寝をしている野良猫ミー。あたりはすっかり薄暗く。

ミー、目をさまし、ゆっくりと伸びをする。

ミー (あくび) ふわああああ。
あたしは・・・猫である。名前はまだない。今日もない、明日もない、一生ない。
そもそも野良猫に名前はない。声をかけてくれる人もいなけりゃ、名付けてくれる人も
いない。だからあたしは今日もここで、檻の中の動物たちがお客さんから
黄色い声援を浴びているのを、ぼんやりとながめながら、自由気ままに暮らしている。
黄色い声援はないけど、代わりにあたしを縛るものもない。
寝たい時に寝て、お腹が減ったらごみ箱から食べ物をあさって、暇になったら、
拾ってきた糸くずで、趣味の編み物なんかしちゃったりして。

物陰からヒメオン登場。あたりを気にしながら、ひっそりと歩く。

ミー いやー、我ながら手先だけは器用なんだよねー。まあ、誰にあげるってわけでも・・・
 (ヒメオンに気が付き) ぎゃああああああ
 (身を隠す) 何で・・・ライオンが・・・檻の外に・・・

ペンタン登場。ヒメオンに近付く。

ペンタン ありがとう。来てくれて。
 何かわかった？
ヒメオン うん・・・兄さんたちが話しているのを盗み聞きした。
 テンファントの牙は・・・(耳打ちをする)
ペンタン 土の中と・・・水の中・・・確かにそう言った？
ヒメオン ええ。そんなことより、大丈夫なの？みんながあなたたち家族の行方をさがしてる。
 こんなところにいたら。
ペンタン 大丈夫。父さんと妹は安全なところに隠れているし。それより君も、こんなことを
 してるのがばれたらただじゃすまないだろ？もう戻った方がいい。
ヒメオン うん・・・じゃあ、いくね。また・・・会いに来るから。
ペンタン ああ、また。

ヒメオン、身を忍ばして退場。それに合わせて身を隠していたミーがペンタンに引かれるように近寄る。

ペンタン 水と・・・土か・・・(ミーに気が付き) うわー、何、君、ずっといたの？？
ミー (急に話しかけられて、恥ずかしさで固まる) え？
ペンタン もしかして、話、聞こえてた？？

ミー (テンパって) いや?あの、その、何を話してるのか、あたしにはさっぱり。
ただ、このあたりじゃ、あまり見ない方だな、と思って。

ペンタン (誤魔化すように) ああ、そうだね、ちょっと、今日はこのあたりまで散歩。
月が綺麗だから。

ミー え?月?(空を見上げ) ああ。ほんと。おいしそう。

ペンタン え?

ミー え?いやだ、その、まん丸いおまんじゅうみたいで。

ペンタン 面白いこと言うね、君。あ、それ、君が編んだの?すごい、きれいだね。

ミー え?そんな、そんなこと、これくらい、朝飯前っていうか、昼飯前っていうか、
今は夕飯前っていうか・・・

ペンタン じゃあ、今度は、もっと別のも見たいな。楽しみにしてるよ。えっと、名前は?

ミー え、いや、野良猫に名前何て、ないですよ。

ペンタン そうなの?じゃあ、君は三毛猫だからミーちゃん。どう、ミーって名前。

ミー ミー・・・

ペンタン そう。ミー。
(あたりを気にして) じゃあ、もう行くよ、またねミーちゃん。

ペンタン退場。

ミーは茫然とそれを見送る。所謂一目ぼれというやつである。

ミー ・・・名前のない野良猫に、今日名前がついた。
あたしは・・・ミーである。

「5場」

牧場エリア。

その中を駆けるシマウマのシマロク。その後をついていくシマウマの子マツとポニーの子サク。

シマロク よし、今度はここをジャンプだ。
マツ えい！
サク えい！
シマロク じゃあ、最後は家まで二人で競争だ。
マツ オッケー
サク よし、マツ兄ちゃん、負けないぞ！

マツとサク、小屋まで競争。最後にマツがサクを引き離す。

マツ 1着———！！
サク ああ、また負けた———！ やっぱりマツ兄ちゃんにはかなわないや。
シマロク でも、サクも、段々速くなってきたぞ。

小屋の中では、ポニジョが帰りを待っている

ポニジョ おかえりなさい。
サク いいさ、僕もいつか兄ちゃんみたいな格好いい縞模様がつくんだから。
 そのころには、兄ちゃんを追い抜いてみせる！

シマロクとポニジョ、顔を見合わせる。

ポニジョ あなた・・・そろそろ・・・
シマロク ・・・ああ、そうだな・・・
ポニジョ ・・・サクちゃん！お話があります。
サク え？何、お母さん。
ポニジョ いいから、こっちへきて。
サク なんだよ。
ポニジョ サクちゃん・・・あのね・・・驚かないで聞いてほしいんだけど・・・
 あなたの体には、お兄ちゃんやお父さんのような縞はできないの・・・
サク ・・・え？ ・・・ええ！！ な、なんで・・・
ポニジョ あなたは、私と同じポニー。シマウマとは種類が違うの。
サク え———！種類ってよくわかんないけど、でも、僕もお兄ちゃんも同じお父さんとお母さんの子供なんでしょ！？
ポニジョ （シマロクに）あなた・・・

シマロク サク、実は、お前は俺の本当の子じゃないんだ。
サク え？え？ええ？お母さん、本当なの？
ポニジョ ええ。あなたは、母さんと母さんの前の旦那（ポニー）の間に生まれたポニーの子。
シマロク そして、マツは父さんと父さんの前の嫁（シマウマ）の間に生まれたシマウマの子。
ポニジョ （突然ミュージカル風に）
お互い前の相手とはのっぴきならない理由で離婚したバツイチ子持ち同士。
そんな二人がある日、牧場の隅で偶然出会って恋におちた。
だけど二人はシマウマとポニー。種の違う者同士の結婚は無理な話。
決して結ばれることのない運命。私たちは人目を忍んで逢瀬を重ねる日々。
だけど時代は変わったの！種が違っても事実上の婚姻関係を認めてもらえる
条例が交付されることになって、私たちはようやく結ばれることができた！
そうしてできたのが私達家族。これが私達のファミリーヒストリー！！！！
サク ・・・・よくわかんないけど、結局僕はシマウマになれないんだよね・・・
ポニジョ そうね・・・あなたはポニーだから
サク 兄ちゃんは知ってたの？
マツ うん・・・
サク そんな・・・ひどいよ・・・。
じゃあ僕は一生、縞々にもなれないし、足も速くならないし、体もスリムにならないし、
このダサい恰好のままなの！？
シマロク こら、別にポニーはださくないぞ！母さんに謝りなさい！

ペンタン、小屋をたずね、家族の様子をうかがっている。

ペンタン あの・・・お取込みのところすみません。
シマロク ん、はい、なんでしょうか？
ペンタン その、細かな事情は訳あって明かせないのですが、実は今、ゾウの牙を探していて、
この牧場の中で見かけたりしていませんか？
シマロク ゾウの牙？？ さあ・・・（ポニジョに）知ってるか？
ポニジョ いえ
ペンタン そうですか・・・

サク、落ち込んだまま、そっと小屋を出ていこうとする。

ペンタン 君、余計なお世話かもしれないが、僕はペンギンだ。
サク （ペンタンを怪訝そうに見て）知ってるよ。
ペンタン 僕は鳥の仲間だ。それが証拠に翼も持っている。でもペンギンは空を飛べない。
いくら翼を動かしても、少しも飛ぶことができない。他の鳥たちが頭の上を自由に
飛び回っているのを羨ましく眺めては、自分の運命を恨んだこともある。

だけど、飛べない僕が今じゃ他のどんな鳥よりも動物園の人気者だ。

いいかい。誰にだって逆らえない運命はある。思い通りにならないこともある。でも、それと同じくらい、自分にしかない特別なご褒美っていうのも与えられているんだ。

サク (ペンタンをじっと見つめ) でも、おじさんだって・・・黒と白のかっこいい
ツートンカラーのボディーじゃないか！

ペンタン おじさん！！(ショックを受ける)

サク 飛べなくなっただって、見た目がカッコいいんだから全然いいよ！羨ましいよ！
やっぱり誰も僕の気持ちなんてわかんないんだ！

小屋を飛び出すサク。

サク ああ、もう、僕は自分が嫌だ。自分の姿がはずかしい。穴があったら入りたいけど、
(あたりを見回し) ないから自分で掘る！！

サク、泣きながら牧場に穴を掘り進んでいく。どんどん深く掘っていくが、底で何かにぶつかりそれ以上進めない。

サク あれ、なんだよ、何か引っかかって、もう掘れない。ああ、もう、僕の邪魔をするな！！

サク、邪魔なものを土の中から掘り出す。それはテンファントのゾウの牙の一本。

ペンタン あ！それだよ、それ！！探してたゾウの牙！！

サク え？

ペンタン すごいぞ、君！！なんでここに埋まってるってわかった！？

サク いや・・・僕はただ・・・なんとなく・・・

ペンタン ほら、やっぱり君は特別だ！何度感謝しても感謝しきれない。君は最高だ！

サク そんな・・・褒められると、恥ずかしいよ(穴に入る)

ペンタン (手を差し出し) さあ、行こう、動物園は君を必要としている！

サク (手を伸ばし) おじさん！！

ペンタン おじさん！！！？？

「6場」

イルオンの横にジラーヌとプレリー、その前に並ぶカメッシュとラビサダ。

イルオン ラビサダよ。実は今日呼んだのは、他でもない。ひとつ頼みがあってな。
ラビサダ ・・・・何でしょう、イルオン。
ジラーヌ イルオン様！
ラビサダ イルオン・・・様・・・
イルオン 実は私に使えているプレリーが、お前の娘を偉く気に入っておってな。
一緒に暮らしたいと、そう俺に言ってくるんだ。
どうだ、娘を俺のところに仕えさせんか？そうすればプレリーとも近くに居られる。
ラビサダ ラビーナを！それは・・・大変ありがたいこと・・・
こちらにお仕えすることができるのなら、娘もきっとよろこびます。
プレリー ひゃっほー！！
イルオン それにあたって一つ気になることがある。カメッシュよ。
カメッシュ は！
イルオン ラビサダの娘とお前が、二人で仲良く戯れているのを見たという噂を聞いたが、
本当か？
カメッシュ 私が？？ウサギの娘と？？まさか！！
先祖代々、カメとウサギは因縁の間柄。争いあうことはあっても、仲良くするなど
そんなことがあろうはずはない！！
ラビサダ そうですわ。こんなろまのカメ野郎と娘が口をきくなんてありえません。
カメッシュ なんだと、この怠け者のウサギが偉そうな口をきくな！
イルオン まあまあ、落ち着け。なるほど、心配はなさそうだな。
では、さがってよい。ラビサダ、娘の来るのを待っておるぞ。

ウサギの家。中でラビーナが一人もの思いにふけっているところへラビサダが帰宅。

ラビサダ 聞いて、ラビーナ！
あなた、イルオンのところへ仕えることになったわよ！すごいじゃない！
ラビーナ え・・・なんで・・・
ラビサダ なんでも、プレリーが、イルオンに直接願い出たらしいのよ。
あのプレリーってやつは何だか気に入らないけど、でも、これでイルオンに気に入ら
れたら、将来のあなたの地位は安定よ！！
ラビーナ そうだけど・・・
ラビサダ 大丈夫。辛抱するのは最初だけ。気にいられたらこっちのもんよ。
キリンの娘をみなさい。イルオンに引っ付いてたら、いつの間にかいい身分に

昇りつめちゃって。ちょっと首が長いからって何よ。耳の長さじゃ私たちの勝ちよ！
ね？

ラビーナ ・・・うん

ラビサダ さあ、じゃあ、さっそくお仕えに行く準備をしないと。いそがしくなるわ。

ラビーナ ・・・ちょっと・・・散歩に行ってくる・・・

ラビサダ え？あ、そう？早く戻ってきなさいよ。

外に出ると、ききょうとこぎくが寄ってくる。

ききょう ラビーナ、どうしたんです？

こぎく どちらへ？

ラビーナ、無視して川のほうへ歩いていく。ききょうとこぎく、不思議そうに顔を見合わせる。
一方のカメッシュ、川岸で物思いにふける。

カメッシュ ・・・これでいい。彼女もイルオンに仕えれば、将来も安泰だ。

首を伸ばし、月を見上げる。

カメッシュ きれいだ・・・高いなあ・・・地面をはいつくばってる私とは大違いだ。
カメが首を思い切り伸ばすのは、月に近付きたいからだ、って誰かが言ってたっけ。
あれ・・・おかしいな・・・月の中にウサギが見える・・・いよいよ私も
どうかしてきたか・・・

いつの間にか対岸にラビーナがいる。カメッシュと目が合う。お互い目をそらす。が、その後ゆっくりと
お互いを見つめる。近づこうとするが近づけない。無言のやり取りが続く。

ラビーナ もう！どうして、あなたはカメなのよ！！カメじゃなければ・・・

カメッシュ どうして、君はウサギなんだ。自分の運命を呪うよ・・・

ラビーナ、岸のギリギリまで歩む。

カメッシュ あぶない！！

ラビーナ いいの、私たちはこの世では一緒になれない運命。だったら・・・

カメッシュ ・・・わかった！僕も行く、いっしょに、あの世で一緒になろう。

二人、いっしょに川に飛び込む。たまたま通りかかったペンタン、飛び込む瞬間を目撃。

ペンタン おいおいおい

ペンタン、急いで川をのぞき込むが、二人の姿は見えない。しばしの静寂。
突然、川の中から勢いよくカバが飛び出す。

カバシチ もおおおお、せっかく気持ちよく寝ていたのに！！

カバシチの口の中で、ラビーナとカメッシュが横たわっている。二人がつかまっているのはゾウの牙。

ラビーナ （意識が戻って）あれ？ここは？天国？？それとも夢の中？？

カバシチ 夢の中じゃなくて、お口の中。

ラビーナ じゃあ、生きてるの・・・ああ・・・カメッシュ！カメッシュ！
しっかりして、やっぱり死んじゃいやだ！！

カメッシュ ん？（首をひっこめたまま）

ラビーナ ああああ！！首がない！！！！

カメッシュ （首を出して）あるよ！！

ラビーナ もう、脅かさないで！！ ああ、よかった！！

カメッシュ でも、どうしよう、これから・・・。

ペンタン おーい、君たち。君たちが掴んでいるそれは、テンファント様の牙だ。
君たちが、君たちの愛が、それを見つけ出したんだ。
その事実が君たちを守ってくれる。大丈夫、君たちの愛は誰にも邪魔させない。

カメッシュとラビーナ、お互い手を取り、愛を誓う。

カバシチ いいかげん、しんどいっす。

「7場」

ひとりマフラーを手に持って落ち着かないミー。

ミー (一人でシミュレーション) あの、これ、よかったら・・・
 あなたのことを思って編みました・・・いや重いな。
 ほい、よかったら、巻いて・・・軽いかな。
 (ぶりっ子で) あのお、大したものじゃないんですけどお・・・
ペンタン 何が大したものじゃないって??
ミー わあ、あの、その、あ、い、う、え、お。(無言でマフラーを差し出す)
ペンタン え、これ、くれるの? すごい、これ編んだの??
ミー いえ、単なる趣味なんで。
ペンタン 巻いていいかな。
ミー どうぞ、どうぞ。
ペンタン ありがとう。どう?
ミー はい、とっても、似合ってます。

ヒメオンが物陰から現れる。

ミー (ヒメオンに気が付き) ひ!
ペンタン ああ、ごめん。ちょっと待ち合わせしててね・・・失礼するよ。
 (ヒメオンに近付き) ヒメオン。
ヒメオン (マフラーを見て) 何? その恰好、変装?
 いや、ちょっとね。そんなことより聞いてくれ、実は牙が2本とも見つかったんだ。
 君が協力してくれたおかげだ。あとはそれをテンファント様に戻すだけ・・・。
ヒメオン その方法も兄さんは知ってるみたいなの。だけどなかなか聞き出せなくて。
ペンタン そうか・・・やはり直接聞き出すしかないか・・・
 ヒメオン、今から私をイルオンのもとに案内してくれ。
ヒメオン いいの? 兄さんはあなたを殺すつもりよ。
ペンタン 大丈夫・・・何とかして見せる。

ヒメオン、ペンタンとイルオンのもとに向かう。ミー、去り際のペンタンのマフラーの端に爪をひっかけ、毛糸の端をつかむ。ペンタンの通った道にマフラーから毛糸が伸びていく。ミーはそれを手繰ってこっそりとついていく。

道を進むヒメオンとペンタン、そのあとをついていくミー。

ヒメオン (振り向いて) 何なの、あんた。ついてこないでよ。
ミー (おびえて声が出ない)

ヒメオン がおおおお！
ミー ひー（体を丸める）

再び進むヒメオンとペンタン、懲りずについていくミー。

ヒメオン ついてこないでって、言ってるでしょ！！
ミー ・・・・（ゆっくりと毛糸を手繰り、マフラーとペンタンを引き寄せる）
ヒメオン 何よ？この人に用があるの？
 残念だけど、今、私との用事で忙しいの、あきらめなさい。（マフラーを引く）

ミーとヒメオン、しばらく無言で、ペンタンのマフラーを引きあう。間でペンタンは右往左往。

ヒメオン ああもう！しつこい！！
ミー ・・・・（睨む）
ヒメオン 何？野良猫の分際で、ライオンのあたしに歯向かう気？
ミー にゃああああああ
ヒメオン ははは。がおおおおおお！！
ミー （逃げ隠れる）
ヒメオン まったく、同じネコ科でもあなたと私じゃ身分が違うのよ。
 子猫ちゃんは帰って寝なさい。

ヒメオンとペンタン退場。

ミー、それでも懲りずに後を追って退場

「8場」

イルオンの部屋。ヒメオンがはいってくる。

ヒメオン 兄さん、ちょっといい？

イルオン なんだ、こんな夜更けに。

ヒメオン うん・・・あのね・・・テンファントの牙は・・・もう、元には戻らないの？

イルオン どうして？

ヒメオン だって、今のこの状態が永遠に続くとは思わないわ！

兄さんが好きにできるのも今だけで、いつか終わりが来る・・・そうじゃない！？

イルオン はっ！そんな心配か・・・大丈夫だ、もしも、隠した牙が見つかったとしても、それだけでは元には戻らん。

ヒメオン どうすれば・・・

イルオン それはな・・・

（部屋の外に）おい！そこにいるのはわかってる。隠れてないで出てきたらどうだ！

部屋の隅からペンタンが姿を現す。

ヒメオン 兄さん・・・どうして。

イルオン お前が妹に付きまとっているのはわかっている。ばれていないとでも思ったか？

甘いなあ・・・まあいい、せっかくだから教えてやろう。

テンファントの牙をもとに戻す方法、それはな・・・

雄のライオンのたてがみ・・・それを使って、牙を元通りに縫い付けなければならない。

ペンタン たてがみ・・・

イルオン そうだ。そして親父がいなくなった今、この動物園で雄のライオンは俺だけだ。

つまりいくら牙が見つかったところで、俺の協力がなければ、牙は元には戻らん。

わかるか？ まあ、それもまず牙を見つけることができたらの話だがな。

ペンタン そうか・・・（外に）さあ、こっちへ。

牙を一本咥えたサク、背中にもう一本の牙を甲羅に乗せたカメッシュとラビーナが入ってくる

イルオン ほお・・・牙を見つけたのか・・・大したものだ・・・

だが、最期は俺のたてがみが必要だ。さあ、どうする、力づくで奪ってみるか。

イルオン、ペンタン達にゆっくりと近づく。その勢いに押され、身を縮めるペンタン達。

イルオン どうした、欲しいのだろ、このたてがみが！

突然、ヒメオンがイルオンに襲い掛かる

ヒメオン おおおおお！！
イルオン な！！何を！！
ペンタン ヒメオン！！
ヒメオン さあ、今のうちよ。私が兄さんを押さえておくから、早くたてがみを！！
イルオン 馬鹿な、血迷ったか！！
ヒメオン 早く！私の力が尽きないうちに！！

ペンタン、意を決しイルオンとヒメオンの元に近付いたところをイルオン、ヒメオンを投げ飛ばす。

イルオン 妹だとして俺に歯向かうなら容赦はせんぞ！！
ペンタン ヒメオン、大丈夫か！？
ヒメオン （引きちぎったたてがみを出し）これ・・・引きちぎってやったわ。
イルオン 貴様！！
ヒメオン さあ、はやくこれで牙を！
イルオン させるか！！

飛び掛かってくるイルオンに、ヒメオン再び襲い掛かり、その動きを制す

ヒメオン さあ、はやく！テンファントの元へ！！
ペンタン ・・・だけど、私の手では、これで牙を縫い付けるなんて・・・
ヒメオン そのマフラーを引いて！その先に手先の器用さだけが取り柄の馬鹿がいるでしょ！
ペンタン え？

ペンタン、マフラーを引くと、野良猫ミーが飛び出す

ペンタン ミーちゃん、僕の代わりに、このたてがみであの牙をテンファント様に
縫い付けることができるかい？
ミー え！いや、そんな・・・無理無理！！
ペンタン 君しかいないんだ！！こんな素敵なものが編める君のは君だけだ！！
ミー だって、いきなりそんな責任重大なこと言われても、怖くて手が震えちゃってるし、
やったことないし、自信もないし・・・
ヒメオン うるさい！！あんたも私と同じネコ科の端くれでしょ！！
 だったら・・・、だったら一度くらい好きな人のために、勇気を見せなさい！！

ミー、覚悟を決めて、ペンタンからたてがみを受け取る。

ペンタン 頼む・・・(牙を持つ3人に) ミーちゃんと一緒にテンファント様のところへ。
ミー よし！行くよ！！

テンファントの小屋に駆け出すミー、後を追うサク達3人。

イルオン 行かせるか！！
ヒメオン (必死に押さえつけるが飛ばされる) きゃああああ
ペンタン ヒメオン！！

ヒメオン、何度も何度もイルオンに立ち向かう。
と、テンファントの小屋の方が明るい光に包まれる。

テンファント(声) ぱおおおおおおおおおおおん！！！！

響き渡るゾウの鳴き声。

イルオン ああああ
ペンタン やった

ペンネムが登場。

ペンネム ああ、テンファント様・・・よかった・・・

「エピローグ」

飼育員

皆さん、ようこそ妹背山動物園へ。

では私から皆さんに、この動物園の動物たちの簡単な紹介をさせていただきます。
まずは「ゾウエリア」。長らくお休みしていたみんなの人気者ゾウさんがようやく復活しました。ひさしぶりに皆さんの前に姿をお見せするので、お楽しみに！

次にこちら「サファリーエリア」。ここにはいるのは百獣の王ライオンの兄弟、
兄のイルオンと妹のヒメオン。

それからキリンの親子、ジラーヌとジラメド。

そして、プレーリードッグのプレーリなど、サバンナに生息するたくさんの動物が暮らしています。

ヒメオン

兄さん、肩もんで。

イルオン

はい

ヒメオン

あ、痛たたた。もっと優しく

イルオン

は？文句言うなよ？

ヒメオン

え？誰のおかげで罪を逃れたと思ってるの。私が必死にかばってあげたからでしょ。
あれはちょっと激しめの兄弟げんかだって！！はい、次、背中。

イルオン

はいはい

飼育員

そして次はこちら、「ウォーターエリア」。人気のペンギンたち。それからカメ、
そしてきれいなピンク色をしたフラミンゴたちです。

次はこちらの「プチエリア」。可愛いうさぎの親子をはじめ小さな動物たちが皆さんをおまちしています。

フラミンゴに乘せられ、ウサギ小屋の前に降りるカメッシュ。

こぎく

ラビーナ、お迎えが来たわよ。

ラビーナ

はい。お母さん、お出かけしてくる。カバさんのとこ。

ラビサダ

はいはい、夕飯までには帰ってくるのよ。

カメッシュの背中にラビーナが乗り、カメッシュ高速回転で宙に浮きそのまま飛び立つ。

ラビサダ

まったく・・・でも二人の力が、動物園に平和を取り戻したんだものね・・・
見守ってあげましょうか・・・

飼育員 少し離れたこちらは「マキバエリア」。ここにはポニーや、シマウマたちが
元気に走り回っています。

ポニジョ ちょっと、サク！いつまで走り回ってるんの！
今日は、テンファント様のところへお仕えに行く日でしょ。
サク 大丈夫、もう準備はできてるから。
マツ サク、すごいなあ。あっちへ行っても僕のこと忘れないでよ。
サク うん。また遊びたくなったらすぐに戻ってくるから。
シマロク サクの才能が認められたんだ。しっかりがんばれよ。
サク はい。

そんな動物園の様子を端から見つめるミー。

ミー あの事件があってから、動物園の中は少しだけ変わった。
でも私の生活は変わらない。
あいかわらず寝たい時に寝て、お腹が減ったらごみ箱から食べ物をあさって、
暇になったら、拾ってきた糸くずで、趣味の編み物なんかしちゃったりして。
・・・でも、ちょっとだけ変わったことと言えば・・・
できた！！

物陰から、たくさんの編み物に身をつつんだペンタン登場。
ミー、その上から今編み終わったマフラーを巻き付ける。

ちょっと暑苦しい二人の逢瀬。

終劇